

夢見の コリドール

写真文

津島修三

〈秋田市在住〉

男鹿市(旧若美町)の鶴木小学校は、明治八年創立というたいへん歴史のある小学校だ。幾たびかの校舎建て替えを経て、昭和六十三年に現在の校舎になった。この校舎の造りはかなりユニーク。奇抜ですらある。それもそれは、学校建築がしばしば類型的になりがちなのを潔しとしない建築家が、「生涯子どもたちの記憶に残るような、世界に一つしかない小学校をつくらう」と企てた設計構想の結果なのだ。


校舎は楕円形のドーナツ状をしている。中庭を囲んで緩やかな曲線を描く廊下が一周し、その外側が教室や職員室だ。実際にこの廊下立ってみると、ちよつと奇妙な感覚におそわれる。歩いているうちにいつの間にか元いた場所に戻ってしまっていたり、一瞬自分のいる場所が分からなくなってしまうたりするのだ。

2001年宇宙の旅という映画に出てくる宇宙ステーションは、疑似重力を発生させるために回転するドーナツ状の形をしていて、宇宙飛行士はその輪になったチューブのような空間の中で活動していたが、この小学校の校舎も、まさしく、そんな宇宙ステーションのイメージをほうふつとさせるものだ。

そのことは建築家自身も明示していて、「この校舎は、宇宙に浮かぶドーナツ型の都市(スペースコロニー)であり、それがこの地に舞い降りたもの」つまり、宇宙船のイメージであると言っている。

鶴木小学校の校舎を設計したのは、釧路市生まれの異才の建築家毛網毅曠である。地元北海道をはじめ、全国に多くの斬新な造形の建物をつくった。秋田の近場で言うと、弘前市の中三デパートも彼の作品だ。知らずにその前に立つと、とてもデパートとは思えないような近未来的な造形に圧倒される。毛網毅曠の建築の底流には「風水」がある。「見奇抜なだけにしか見えないデザインにも、実は風水の裏付けがあるのだ。残念なことに、彼は平成十三年に五十九歳という若さで亡くなっている。鶴木小学校だけでなく、もつと秋田にも風水パワーで地域や人々に力を与えてくれるような建物を建ててほしかったところだ。

鶴木小学校は、学校経営の基本方針として、「夢のある学校」というキーワードを掲げている。それはまさに、建築家から子どもたちへのメッセージでもあったろう。曲線は人の気持ちを穏やかにする。曲線で一周するコリドール(回廊)のある学校で六年間を過ごす子どもたちが、うらやましく思えたことだった。



直線が普通の学校の廊下が曲線というのは奇妙な印象だが、案外深い意味があるのかも。元気な子どもたちの様子を写真に撮りたくて、立ち会っていただいた校長先生に「子どもたちが廊下を走るというシチュエーションは問題ないか」と尋ねたら、どうぞどうぞと快諾。このおおらかさがいい